

学校教育目標	
「自分が輝く みんなも輝く」 ○自分から進んで学び、経験や知識を活かしていく力を育てます。(知) ○自分を大切にし、人に優しくできる心を育てます。(徳) ○自らの健康を見つめ、体力を高め、たくましく生きようとする態度を育てます。(体) ○丸山台のまちを愛し、よりよい地域や社会に向けて自分の役割を果たそうとする態度を育てます。(公) ○広い視野をもち、未来に向けてともに生きていく力を育てます。(関)	

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	
<自分づくりに関する力>	・協働的に行動する姿勢 ・問題解決的に取り組む姿勢 ・社会生活の中での協調性 ・自分らしさを発揮しようとする姿勢 ・夢や希望をもち、生き方を追求する姿勢 ・伝え合うことで自分の考えを 深化 させる力

中期取組目標	
◎子ども一人一人の自分づくりに関する力を伸ばすことを大切に、「チーム丸山台」として全職員で活気と魅力ある学校づくりを目指します ○「学校四期制」「食の学び」「交流・連携」の3本柱の内容を、with COVIDの状況下での見直しや修正を行い、本校が大事にしてきた特色ある教育活動を継続します。 ・自分からめあてをもち、自分らしさを発揮しながら夢中になって粘り強く取り組む教育活動に取り組みます。 ・「食」の学びを中心に、健やかな体と豊かな心を育むとともに、広く社会に目を向け、共に活動する姿勢も育みます。 ・異学年、異校種交流や地域との連携も含め、様々な場面で自尊心や自己有用感を育みます。 ・コミュニケーション能力を高め他者の思いに寄り添い、誰もが安心して豊かに生活できるようにします ・まちや社会で働く人との出会いや学びを通して、自分の将来への夢や希望をもって生きようとする態度を育てます。	

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善 担当 指導部評価・重点研	①各教科において単元や毎時間のめあてを明確にするともに、個々の児童の課題を把握し、計画的な指導を行って学力定着を図る。②児童の主体的な課題解決のために、必要感のある学習課題を設定し、日常生活に還元できるようにする。③児童同士が考えや思いを伝え合い、高め合える環境設定を工夫する。

学力向上に関わる本校の状況
○昨年度の児童アンケート(12月)によると、「学校ですんで学習していますか。」という問いに対して、42%の児童が「とても」、53%の児童が「ふつう」と答えており、「あまり」は5%であった。意欲的に学習に取り組んでいる児童は、約半数だといえる。また、「学校で友達の話の聞いたり、自分の思ったことを伝えたりすることができていますか。」という設問でも、「とても」と答えたのは約半数であった。 ○昨年4月実施の横浜市学力・学習状況調査の結果では、どの学年も正答率が市平均を大きく上回っていた。経年変化をみても、毎年同様の結果となっている。特に、基礎・基本的な力は良好な結果であり、学んだことが定着しているといえる。反面、知識を活用したり自らの考えを表現したりすることには課題も残る。 ○一方、生活意識・学習意識調査からは、どの学年も市平均よりも意識が低いことがうかがわれる。学んだことが実生活に役立つ実感になかったり、活用しようとする意欲が低かったりする児童が多いと考えられる。 ○また、家庭状況を見ると、塾に通ったり中学受験をしたりする児童の割合がかなり多いのが実態である。 ○授業を通した教師の実感でも、知識はあり、学力も高い児童が多いが、意欲をもって主体的に学びを作り出す姿勢が十分に育っていないと感じられることがある。 ○さらに、学力の差も課題である。全体として学力が高い状況の中で、力の定着が十分でなかったり学習への意識が低かったりする児童への細やかな支援が必要となっている。 ○重点研究としては、昨年度までの2年間は算数、今年度からは特別活動を取り上げている。

今年度の目標
○基礎・基本の学力の定着に継続して取り組み、学んだことを生活や将来に結びつけたり、自分のよさを伸ばしたりすることについて考える力をつけていく。 ○意欲的に学びに向かえる課題や材の工夫に継続して取り組む。 ○思考力・判断力・表現力の育成に向けて、様々な学習の場の設定を工夫する。

目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期 ○一人一人の児童の学力や資質、学習に関わる特性などを見取る。そのために、発言の様子はもちろん、机間巡視をしながら声をかけたりノートやワークシートをチェックしたり等、細やかな対応を心がける。 児童が毎時間の取組をしっかり把握できるよう、めあてを明確に提示する。モジュールや朝学習の時間を生かし、繰り返しや積み重ねの学習を大切に。 ○教材研究を丁寧に行い、児童が興味や関心をもてるような学習課題を設定したり教材や資料を工夫したりする。 また、机上の学習のみで終わらせず、学んだことを活用して新たな課題につなげたり日常生活に役立てたりする機会を意図的に設ける。 下半期 ○児童が自分の思いや考えを表現できるように、文章で書く、絵や図で表す、タブレットを活用するなど様々な場の設定を工夫する。 また、全体の場で発言する。ペアでの対話、グループでの交流等、教科や学習内容の特徴、児童の特性を生かし、学び合う実感がもてるようにする。	

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
人権教育 担当 指導部人権児童指導 道徳	①できることを増やす体験を通し、自尊心や自己有用感を育む取組を推進する。②学習活動に対話の場面を多く取り入れ、見方・考え方を広げたり深めたりできるようにする。③豊かな心の育成を目指し、道徳科と特別活動を要として、学校の教育活動全体を通じて行い他者の思いに寄り添う心情を育む取組を推進する。

豊かな心に関わる本校の状況
(1)豊かな心に関わる児童の実態 ・コミュニケーションや協働のよさに気づきにくい子どももいるので、人との関わりを重視する必要がある。 ・礼儀やルールを守ることの大切さを実感する経験を通して、規範意識を高めていく必要がある。 ・自分のよさに気づいて自己肯定感を高め、自他共に認め合う態度を育てていく必要がある。 (2)これまでの学校の取組状況 ・Y-Pアセスメントを活用した学級経営や児童理解に努める。 ・本校の特色である「食」の学びの指導を系統的に行い、食を通して人権教育を長く実践している。また、まちや人とのつながりを大切に単元づくりを行い、まちのよさに気付いたり、まちの一員としての自覚をもったりすることを目指している。 ・年度初めには、全職員で共通理解すべき内容について確認する時間を設け、同じ指導をしていくことを大切にしている。 ・年間指導計画に沿った全学級の道徳授業公開を、年一回以上実施する。(昨年度は実施できず)

今年度の目標
・重点研究で学級活動を取り上げ、自己有用感や互いに認め合える集団づくりなど、自分づくりに関する力の育成を目指す。

目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期 ○対話により見方・考え方を広げ、多様な考えを受け入れられる子どもたちの育成をめざした人権教育 ・子どもたちが対話して問題解決に向かい、必要感や切実感をもって、本音を伝えることを大切に指導を行う。 ・各学年の年間指導計画を活用し、学校行事や各教科等との関連を図った道徳科や特別活動の指導を行う。 ○異学年交流を中心に社会や集団の中での役割意識をはぐくむ自分づくり教育 ・自分の良さを見つけたり自分の役割を自覚したりすることで、他者への思いやりを深め充実感や自己有用感をもてるよう、たてわり活動を計画する。 ・様々な「本物」に触れる体験を含む豊かな活動を取り入れた出前授業や校外学習を各学年で計画する。 ・子どもが学習の見通しを立てたり、振り返りできるように、キャリアパスポートの見直しを行う。 ○重点研究による授業改善 ・「自分づくり」における特別活動の役割など、指導主事等による研修を基に、学級活動の充実に取り組みむ。	下半期

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育 担当 体育部 保健給食	①児童の体力向上のために、まずは運動を楽しみと思えるような心情・姿勢を育てる。また、運動能力と体力を支える生活習慣について理解し、自分自身のためあてを設定し、生活の中で実践できるようにする。②保健体育では、食生活のあり方を含めたよりよい生活習慣を主体的に考え、健康の保持増進を自ら図る態度を養う。

健やかな体に関わる本校の状況
○近年の本校の傾向として、毎日の朝食の摂取率はほぼ100%に近い。また、睡眠時間についても問題のない結果が調査から出ている。昨年度の分登校明けの体と心のアンケート結果でも、朝食の摂取率や睡眠時間については、問題点は見られない。しかし「よく眠ることができる」頻度については、課題と思われる数値が出ている。学年が上がるにつれて、よく眠ることができていく感覚に乏しく、6年生児童では、約半数が週に2〜3日はぐっすり眠れていない実態がある。 ○テレビ(テレビゲームを含む)視聴機器とパソコンや携帯電話・スマートホン等の使用時間は、全体的に横浜市の平均よりも長い傾向がある。 ○運動能力については、全体的に、市、全国の平均に比べ著しく低い。本校では毎年、全学年で同様の傾向が見られる。特に全身持久力(シャトルラン)に大きな課題があるといえる。同じ運動を繰り返し続けたり、粘り強く運動に取り組む、より高い目標を達成したりする経験を多く積み重ねる必要があると思われる。また、握力と上体起こし、反復横跳びも、横浜市の平均値よりも概ね低い。ただし、反復横跳び、シャトルラン、ボール投げについては、運動・スポーツの実施時間が長い子が、実施時間の短い(30分未満)の子に比べ、著しく高い数値になっていることも分かった。 ○これまで、体育の授業では、感染症拡大防止措置のガイドラインに沿いながら、個々の運動量を確保できる場の設定を工夫し、運動能力の増進に努めてきた。また、子ども同士の見合い・教え合いの場を授業の中で取り入れ、仲間とともに高め合う授業づくりに努めた。 ○健康面では、日々の保健指導や「保健」の授業の中で、よりよい生活習慣について身に付く指導を進めた。また、子どもの健やかな成長を家庭と連携し支えていけるよう、保健便り等で、健康面に関する情報発信を行った。

今年度の目標
○運動が楽しいと思えるような授業づくりを行う。○体育をはじめ、保健・健康的な生活に関する学習では、児童が自ら課題を見つけ、解決に向け主体的に取り組むことができるようにする。○学んだことを生かし、よりよい生活習慣を身に付け、生活の中で実践できるようにする。

目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期 ○体育では、体育読本をはじめ、運動の動きを示す掲示物や学習カードで、1単元・毎時間の身に付ける力(動き)を明確にする。めあての設定や自分の力の伸びの認識、互いのアドバイスなどに子どもが活用できるようにする。 ○本校の運動能力の課題改善に向け、器械運動領域では、自らの体を支え、全身の動きを制御し安定した動きができることを意識した指導を行う。走の運動、陸上領域では、力強く走ったり、同じペースを持続し走ったりすることを意識した指導を行う。その中で目標達成に向け粘り強く取り組むことができるよう、全学年の単元配列や時間割を見直し、スムーズステップで取り組める場の設定や、仲間同士の教え合いを取り入れた授業づくりを行う。 ○運動能力向上や健康的な生活の実践に向け、横浜市体力・運動能力調査の結果を活用し、子ども自身が自分の課題を認識できるようにする。 ○くすのき会議(学校保健会議)では、健康的な生活に向けた目標と取り組みを子どもたちが話し合い、実践を通して、互いに健康への意識を高められるようにする。 ○保健指導、保健学習では養護教諭と連携しながら、自分の心と体の状態を知り、食事、運動、睡眠と適切な栄養の大切さを指導する。また、学校・学年だより等で健やかな体の育成に関する学校の取り組みを発信し、家庭・地域と協力した指導・支援を図る。	下半期